# 行政と市民の情報共有を考える

## ～市民ともにまちづくりを進めるために～

千葉県匝瑳市　　伊藤　勇気

**はじめに**

現在、地方自治体には自らの責任と判断において地域にあった政策を推し進めることが求められており、それに対する住民への情報公開や説明責任がより重要性を増している。また、政策決定過程への住民参加や参画、協働の取り組みも全国に広まっている。

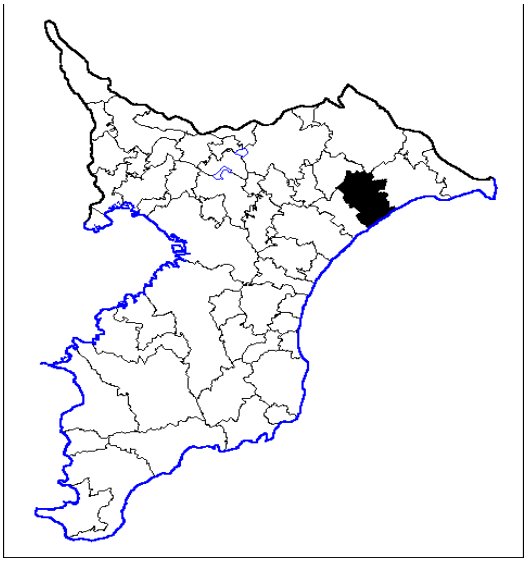
私自身においても、市税の徴収という業務を行うなかで、市民から税を納めていただいている以上、その使途について説明する責任があると感じていた。本レポートでは、日々の業務から生じたそのような思いを出発点に、匝瑳市のこれまでの取り組みも踏まえながら、今後のまちづくりのあり方について考えてみたい。

**１．市の概要と取り組み**

**１－１　匝瑳市の概要**

匝瑳市は、平成 18 年 1 月 23 日に八日市場市と野栄町が合併し誕生した(図 1 参照)。千葉県の北東部に位置し、東京からは 70km 圏内で直通のバスや特急列車が通っている。また、成田空港からは 20km の距離にあり、車では 30 分ほどである。平成 26 年 8 月 31 日現在の人口は 38,862 人、面積は 101.78$km^2$ となっている。

**図 1 匝瑳市の位置**



**出典：筆者作成**

市の北部は山林や谷津田が入り組んだ台地部が多く、里山の自然が色濃く残る地域である。一方、南部は平坦な田園地帯となっており、白砂青松の続く九十九里浜に面している。気候は海洋性の温暖な気候であり、夏涼しく冬暖かい、とても過ごしやすい土地柄といえる。冬でもほとんど降雪は見られない。

市の主要な産業は農業であり、稲作を筆頭にピーマンやトマト、きゅうりなどの野菜が盛んに栽培されている。また、日本有数の栽培面積を誇る植木の産地でもあり、量・質共に高い水準を保っている。

**１－２　市の取り組み**

(1)知名度向上や観光客誘致に向けて

匝瑳市では、これまで市の知名度向上や観光客誘致のために様々な取り組みを行ってき

た。以下、その一端を紹介したい。

①散歩のまち匝瑳

匝瑳市は、テレビ番組『ちい散歩』で散歩の達人として知られた故地井武男氏の出身地である。匝瑳市観光大使を務め、市のＰＲを積極的に行ってくださったことを受け、市は散歩のまちとしてプロモーションを開始。モデルコースの設定やイベントの開催、立ち寄りスポットの発掘を行ってきた。また、ＪＲ千葉支社と連携した、ぐるっと千葉北総号運転に伴う観光ＰＲやおもてなし、駅からハイキングの開催なども行っている。

②難読地名を活かした取り組み

匝瑳市という名称は、八日市場市・野栄町合併協議会において 15 歳以上の住民を対象に両市町の名称を除いて行ったアンケート調査で１位であったことや、両市町の（旧）郡名でもあり住民が共有して一体感の持てる名称であったことから決定した。また、八日市場市内には匝瑳小学校や匝瑳高等学校があり、住民にとってなじみ深い名称でもあった。

しかし、一方で市外の人々にとっては日常生活において「匝」と「瑳」どちらの漢字も使用する機会はほとんどないため、読み方・書き方ともに難しいものとなり、書籍『日本の珍地名』（竹内正浩著）の中では、難読・誤読地名番付の東の横綱として紹介されるまでになった。

一見、難読という点は短所である思われがちだが、匝瑳市ではこれを好機であり個性ととらえ、難読地名を活かした取り組みを開始した。市のキャッチフレーズは、「読めない！書けない！どこにある？」。自虐的ともとれるこのキャッチフレーズは多くの人々の心をとらえ、笑いを誘い、匝瑳市を大きく印象づけることとなった。また、同じく難読・誤読地名番付の西の横綱として紹介された兵庫県宍粟市との交流も始まり、新聞やテレビなどの各種メディアに取り上げられることも増え、匝瑳市の知名度向上に大きく貢献している。

(２)新生匝瑳戦略会議・匝瑳再生プロジェクト

新生匝瑳戦略会議とは、学識経験者や市内団体の推薦者、一般公募者により構成され、市の重要施策や懸案事項などについて検討し、市長に対し提案を行う会議である。平成 22 年 11 月から平成 24 年 11 月にかけて会議や公開ミーティングを重ね、匝瑳市の分析と持続可能な地域づくりのための考え方を示した「匝瑳市再生への提案書～持続可能な地域社会創造のための地域づくりを目指して～」が提出された。

匝瑳市再生への提案書の内容を読み解き、具体的な事業化へ向けてさらに検討を重ねるために始動したのが匝瑳再生プロジェクトである。匝瑳再生プロジェクトでは研究分野の異なる 4 つのグループをつくり、グループごとの会議やグループ全体での会議を経て、平成 25 年 12 月に匝瑳再生プロジェクト推進計画を策定。多数の事業提案がなされた。現在は、担当各課により事業化への具体的取り組みがなされているところである。

## ２．これからの匝瑳市に必要なことを考える

### ２－１　匝瑳市再生への提案書から

すでに述べたように、匝瑳市再生への提案書には、匝瑳市の分析と持続可能な地域づくりのための考え方が示されているが、提案書の作成にあたっては、学識経験者をはじめとした多様な立場の人々が長い月日をかけて取り組んできた。そのため、匝瑳市のこれからを考えるにあたって、この提案書の内容は十分に尊重されるべきであり、重要な手がかりともなると考える。すでに匝瑳再生プロジェクト推進計画にて多数の事業が提案されたところではあるが、改めて提案書の内容をヒントとし、着目した点を抜粋しながら新たな取り組みについて考えてみたい。

> 地域づくりについて出される市民や行政の多様な意見が実を結ばないのは「他人（ひと）ごと」として話しているからではないかと、地域づくりに対する基本的な姿勢が問われることとなった。そこで戦略会議では、それ以降、『「他人ごと」から「自分ごと」へ』をキーワードとして設定することとなった。　（ｐ2）

ここでは、地域づくりに対する姿勢を他人ごとから自分ごとへ転換することの重要性が指摘されている。もちろん、意識を変えるのは行政と市民双方にとって必要である。

自分ごとへ意識を変えるために必要なこと、それは危機感ではないだろうか。先進的な地域づくりを実践している事例をみると、地域づくりのきっかけが「地域がさびれてしまう」といった危機感であることが多い。また、危機感を持つためには市の現状・課題等をよく知る必要がある。そして、それは同時に市の良いところや宝ものを発見するきっかけともなる。

> 匝瑳市の懸案事項を解決するためにも、市行政は「民間が担う公共」領域を広げ、そこで主体的に参加を求め活動していく自律した市民の育成に努め、支援していく仕組みを施さなければならない。そして、市行政と自律した市民がパートナーシップを形成し、市行政と市民の協働による地域づくりの仕組みを作り上げ、それを基礎にした地域づくり計画、懸案事項の解決策を策定していかねばならない。　（ｐ4）

行政と市民の協働による地域づくりの重要性が述べられている。市民協働の概念は、すでに多数の自治体で重要視され、実践に移されているところも多い。しかし、匝瑳市における市民協働の取り組みの発展はまだこれからという段階にある。この部分は、そのような匝瑳市の現状を指摘したといえるだろう。

ところで、行政と市民の協働を推進するにあたって大切にすべき観点は何であろうか。それぞれの立場や考え方から様々であろうが、1 つとして行政と市民間の情報の共有が挙げられるだろう。例えば、千葉大学法政経学部准教授の関谷昇氏は「市民協働は情報の公開・共有と市民の参画・自治を共通の基軸」とし、情報提供の不足が、市民の関心共有や建設的な議論・行動を妨げているという現実を指摘している。また、問題・課題の共有や相互理解を通じて、共通の土俵に立つことの重要性についても言及している。情報共有・住民参加のまちづくりの先進として知られる北海道ニセコ町の逢坂誠二前町長も、様々な論文にて情報の共有の重要性を述べている。

私自身も市民協働の推進においては、行政と市民の情報共有が重要な位置を占めると考える。まず、情報の共有がなければ、互いの立場や考え、気持ちを理解することができず、信頼関係が構築できないばかりか、誤解や軋轢が生じることになりかねない。また同時に、

互いが何をすべきか、どのような役割を担うべきかについても見えなくなってくる。行政は市民・地域の意見や実情を、市民は行政の現状や取り組み課題を知り、互いに理解し合う相互理解のための情報共有が重要であろう。

さらに、情報の共有で市の現状や課題を知ることができれば、地域づくりに対する姿勢を他人ごとから自分ごとへ転換するために必要な危機感を持つきかっけともなるのである。

## ２－２　市民意識調査から

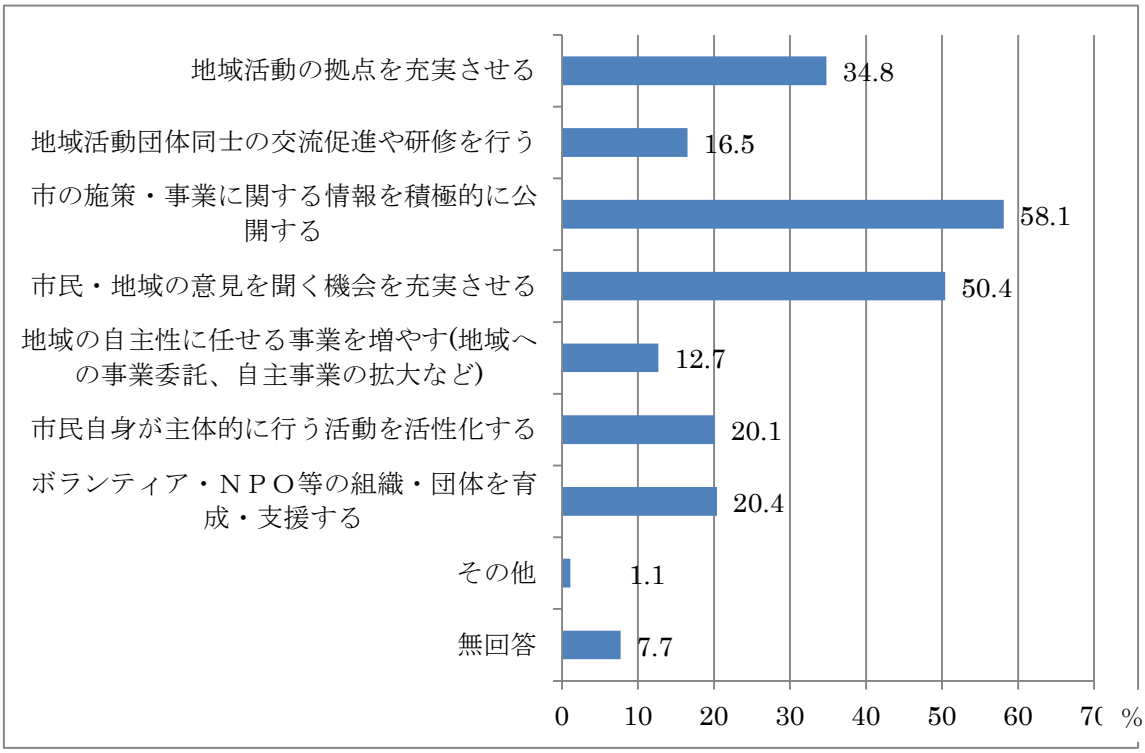
匝瑳市総合計画中期基本計画の策定にあたり、市民の意見をうかがい、計画策定の参考とすることを目的として、平成 22 年 12 月に市民意識調査が実施された。

調査対象：市内在住の 16 歳以上の方から無作為抽出
調査期間：平成 22 年 12 月 1 日　～　平成 22 年 12 月 17 日
調査方法：郵送配布・回収
配布・回収

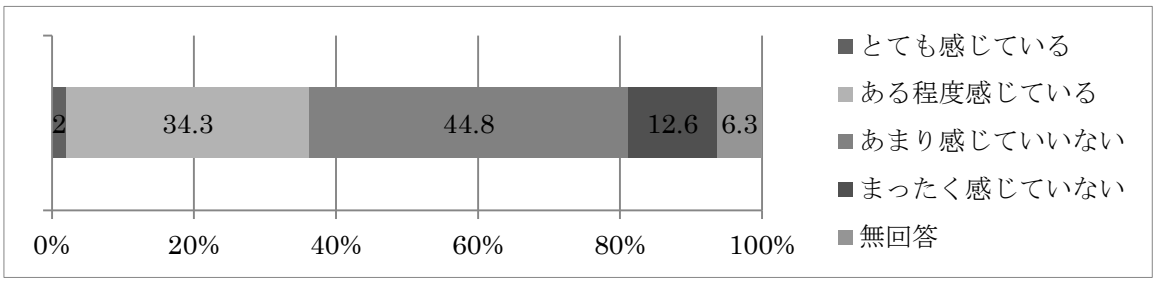
| 種別 | 配布数 | 回収数 | 回収率 |
|---|---|---|---|
| 合計 | 2,000 | 804 票 | 40.2% |

ここでは、前段落で述べた匝瑳市における地域づくりの観点、「行政と市民の協働」と関連する部分の設問について見ていきたい。

**①市民と行政が力を合わせて新しいまちづくりを進める取組みで、何が重要と考えますか。(3 つまで○)**



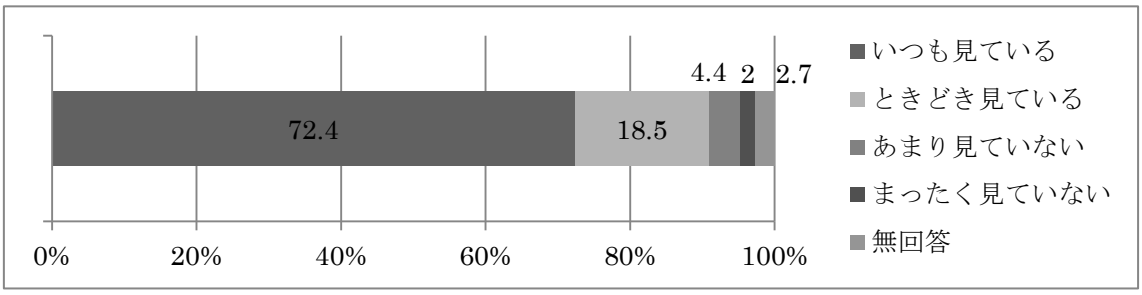
**②あなたは、市の行財政運営に関して、情報の提供や公開が十分と感じていますか。(1 つに○)**



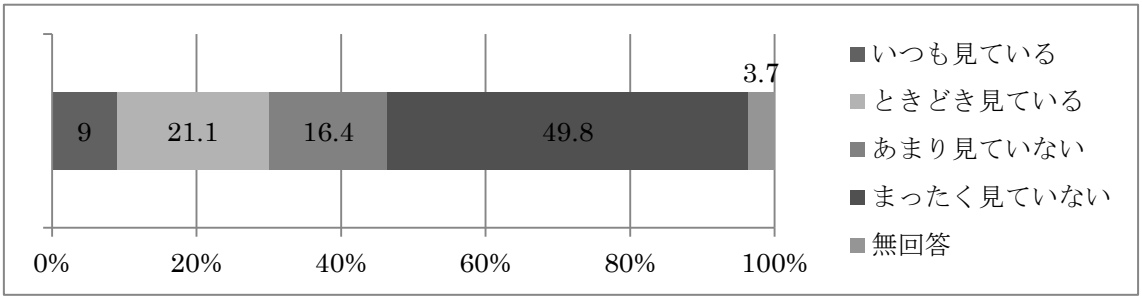

①と②を見ると、市民と行政が力を合わせて行うまちづくり、いわば市民協働のまちづくりにおいては市の施策・事業に関する情報を積極的に公開することが重要であり、情報の提供や公開について不十分と感じている市民意識が読み取れる。

次に情報の提供や公開の手法について参考となる設問に着目してみたい。

**③あなたは、市の広報紙(広報そうさ)を見たことがありますか。(1 つに○)**




**④あなたは、市のホームページを見たことがありますか。(1 つに○)**




市の広報誌については多くの市民に読まれている一方、ホームページについては閲覧者がまだまだ少ない状況である。手間と費用、時間はかかるかもしれないが、匝瑳市においてはホームページよりも紙媒体での情報の提供・公開が有効であると考えられる。

## ３．市民との情報共有を進めるために

ここまでは匝瑳市の現状を分析し、行政と市民の情報共有が重要であること、そして市民としても市の積極的な情報公開を必要としていることを示した。本節では、情報共有と

住民参加のまちづくりの先進である北海道ニセコ町の取り組みを確認し、匝瑳市においてはどのように市民との情報共有を行うべきか、主に匝瑳市からの情報の提供・公開という点に主眼を置き、考えてみたい。

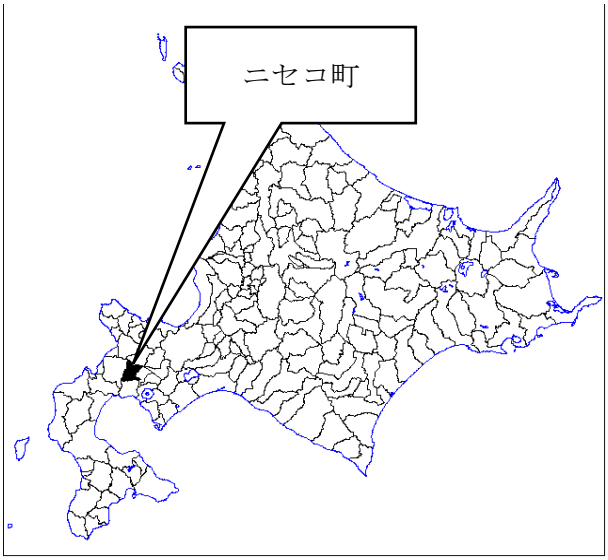
### ３－１　ニセコ町の取り組み

先駆的地域づくり現地調査として、平成 26 年 11 月にニセコ町を訪問した(図 2 参照)。

ニセコ町では、まちづくりの 2 大原則として情報共有と住民参加を掲げ、様々な取り組みを重ね、まちづくりの共通ルール、まちの憲法として「ニセコ町まちづくり基本条例」を制定している。

ここでは、ニセコ町が積み重ねてきた取り組みの一端を紹介したい。

**図 2　ニセコ町の位置**




**出典：筆者作成**

①予算説明書「もっと知りたいことしの仕事」の発行

まちの予算は本来町民のものであり、行政には毎年度の予算を町民にわかりやすく説明する責務があるという考えのもと、通常の予算書では伝わらない予算の具体的な内容を町民にわかりやすくお知らせするために平成 7 年度から作成。毎年 5 月に全世帯へ無料配布している。また、ニセコ町の予算説明書は、すべての事業について掲載し説明している点に特徴がある。

平成 17 年に実施した町民アンケート調査では、回答者の 61%が役に立っていると評価している。平成 26 年度の作成費用は 81 万円、一冊当たりの単価は 338 円である。

②まちづくり町民講座

役場の担当課長が説明者になり、町民へ担当分野の現状や課題をお知らせし、その課題について議論する。毎月 1 回程度実施している。町民講座は、将来に向かっての課題を住民と行政が共有し考える場、職員が仕事について住民にわかりやすく説明する力、対話する姿勢、意見をまとめる能力を養う研修の場としての役割をもつ。

③未成年者のまちづくりへの参加(小学生・中学生まちづくり委員会)

子どもたちに様々な町の一面を知ってもらうとともに、自分たちの力でふるさとの課題を見つけ、提言してもらうことを目的としている。小学生まちづくり委員会は小学 4～6 年生、中学生まちづくり委員会は全学年を対象としており、どちらも委員数は 10 人。公募を基本として各学校から推薦された児童・生徒が委員として 1 年の任期を務める。

ワークショップを中心に、フィールドワークを行い自分たちの眼で町の課題を確かめながら、子どもなりの議論・提言を行っている。

④住民検討会議

中心市街地や各施設の建設・整備にあたっては、住民と共に検討会議を実施。中には、一般廃棄物最終処分場など住民からかなりの批判や反対の声があがる忌避施設もあったが、対話や情報共有を重視してきたことにより無事に建設がなされている。これらを通して、ニセコ町では、情報共有・住民参加の重要性(物事を決定する過程を共有することで、何故そのような結果になったのかということを一人ひとりが理解し行動できる、など)を実証している。

### ３－２　どのような情報を提供するか

情報共有と住民参加のまちづくりの先進であるニセコ町が、行政の情報＝町民の共有財産と捉えているように、本来であれば匝瑳市の情報を市民に対して可能な限りわかりやすく、そして入手しやすいかたちで提供すべきである。しかし、一度に多くの情報を提供可能な状態にするのは困難であるため、本レポートでは情報の焦点を絞り、その情報の提供方法について検討していきたい。

まず、どのような情報を取り上げるかにあたっては、住民が特に何の情報を求めているか考える必要がある。様々な意見があるところであろうが、本レポートでは市税をはじめとする市の歳入がどのように使われているか、すなわち市の予算内容について焦点をあてることとしたい。

このテーマを選択したとりわけ大きな理由は、市の歳入の使途は市民にとって大きな関心事の１つである(なりうる)と考えられるからである。私が思うところ、匝瑳市民にとって行政は、「どのような仕事をしているかよくわからない、遠い存在」となっている印象がある。また、そのような現状は市民の行政に対する無関心を招いていると考えることもできる。このような市民意識の中であっても、市民として市税を納める際には、負担感をはじめとする何らかの市に対する思いを抱いているという推察のもと、この漠然とした思いをわかりやすい予算情報の提供により市への関心や問題意識へ発展させたいと思うのである。なお、冒頭で述べたように、私自身が市税の徴収という業務を行うなかで、市民に税を納めていただいている以上、その使途についても説明する責任があるという思いを抱いていることもテーマ選択の理由であることを申し添えておきたい。

### ３－３　匝瑳市における予算説明資料の状況

市民が閲覧・入手できる予算説明資料としては、法律などで定める通常の予算書(市役所で閲覧、ホームページでダウンロード可能)のほか、広報で当初予算の概要を知ることができる。しかし、通常の予算書は専門用語が多く、単位が千円であったり、一般的にわかりにくい内容となっている。また、広報では市民に理解しやすいよう専門用語の解説などがなされているが、紙幅の制限があるため予算の使途は主要事業のみの紹介となっており、予算の全体像が把握できるとは言い難い。新たに予算情報を提供するとすれば、これらの

課題を解決する必要がある。

### ３－４　より理解しやすい予算情報の提供に向けて

(1)予算情報の提供にあたって

予算情報を提供するにあたって、まずどのような媒体で行うか考える必要があるが、前節で触れた市民意識調査の結果から、紙媒体で行うことが有効であると考えられる。紙媒体で行う以上、市民に手にとって見てもらわなければ意味をなさないため、表紙のタイトルは「ことしの税金のつかいみち」といった目を引きやすいものとなるよう留意する。もちろん、表紙だけではなく内容についても、専門用語を避けたり解説を入れるなど、理解しやすいよう表現・レイアウトを工夫することも大切である。また、手間や費用、時間はかかるかもしれないが、情報提供の観点から、すべての事業について掲載するのが理想的である。

(2)予算説明資料の内容

①導入部分と事業説明

個別の事業予算と内容を説明するに先立ち、予算総額や各会計予算額など予算の概要(一部)を提示し、予算全体のイメージをふくらませたい。ただし、予算の概要については後半に資料として添付するため、煩雑にならないよう留意する。また、あらかじめ新規事業や拡大事業など注目すべき点についてどのようなものがあるか提示し、当該事業が掲載されているページ数を示すなど検索しやすいように配慮したい。

本編である事業内容とその予算の提示は、従来の目的・性質別といった分類方法ではイメージしにくいため、総合計画の基本目標及び施策単位で行うのが望ましい(図３参照)。

**図 3　匝瑳市の基本目標・政策(一部抜粋)**

| |
|---|
| 基本目標１　生きがいに満ち、笑顔があふれるまちをつくる（健康・福祉・医療分野） |
| 施策 1-1 健康・生きがいづくりの推進 |
| 施策 1-2 高齢者福祉の充実 |
| 施策 1-3 障害者福祉の充実 |
| 施策 1-4 子育て・子育ち支援の充実 |
| 施策 1-5 医療体制の充実 |
| 施策 1-6 地域福祉の推進 |

**出典：匝瑳市総合計画中期基本計画より筆者抜粋**

総合計画の基本目標及び施策単位で分類し、個別の事業名と予算額、事業内容などについて解説を行う。そのイメージは図４の通りである。

新規事業や拡大事業の場合は、
その旨を明記

**図 4　事業説明のイメージ**

| 転入者マイホーム取得奨励金交付事業 | ２，１００万円 |
|---|---|

(企画課)

人口減少の抑制と地域の活性化を図るため、匝瑳市に定住することを目的に、新築又は中古住宅を取得した転入者に奨励金を交付します。

交付金額は、新築住宅５０万円(市内業者で新築の場合７０万円)、中古住宅２０万円となっています。

財源の内訳

| | |
|---|---|
| 匝瑳市 | １，０５０　万円 |
| 国・千葉県 | １，０５０　万円 |
| 借入金 | 万円 |
| その他 | 万円 |

主な経費

・奨励金交付費用　　２，１００　万円

**出典：筆者作成**

②資料編

資料編では、予算とは何であってどのように決めるのかといった基本的事項、補正予算の存在について説明を行う。また、導入部分で説明しきれなかった予算の概要についても触れたい。

さらには、市民の関心事と思われる市の補助金の交付について一覧形式で提示したり、市の財政の健全度を市債や基金の残高推移、財政力指数や経常収支比率などの指標を活用して示すことも大切である。ただ、これらの事項は広報などで周知する内容と重複する部分があるため、十分な調整が必要であると思われる。

**おわりに**

本レポートにおいては、市民への情報提供の１つとしてより理解しやすい予算情報の提供に焦点をあてたが、今後は様々な分野において行政の現状や取り組み、課題についての情報提供・公開を推進していく必要がある。また、行政の情報を提供するだけではなく、市民・地域の意見や思い、実情を積極的に吸い上げていく取り組みも求められる。これらの取り組みが機能し合うことで､行政と市民の情報共有がなされ､互いに関心をもち合い、相互理解や信頼関係の構築につながっていくであろう。市民とともに歩むまちづくりは、

そこから始まるのではないだろうか。

全国地域リーダー養成塾での研修やレポート作成を通して、多くの貴重な学びや経験を積むことができ、また自らの地域について改めて学ぶきっかけとすることもできた。これらの経験は、是非とも今後の人生で活かしていきたいと思う。さらに、研修を通して全国に多くの仲間ができたことはかけがえのない宝であり、今後も支え、励まし合いながらそれぞれの地域で努力していきたい。

最後になるが、レポートをご指導くださった武藤博己先生とゼミの皆様、多くの刺激と元気をいただいた塾生の皆様、サポートしていただいた地域活性化センター職員の皆様、応援とご理解をいただいた職場の皆様、そしてご協力いただいたすべての皆様に深く御礼申し上げたい。

**【参考文献】**

一般財団法人　自治総合センター　(2003)　『住民参加によるまちづくり』
香取市　(2009)　『香取市市民協働指針(かとりの風)』
匝瑳市　(2011)『匝瑳市総合計画　中期基本計画策定のための市民意識調査結果報告書』
匝瑳市　(2011)　『匝瑳市再生への提案書』
匝瑳市　(2012)　『匝瑳市総合計画中期基本計画』
匝瑳市　(2014)　『統計そうさ平成 25 年版』
竹内正浩　(2009)　『日本の珍地名』文藝春秋
匝瑳市ホームページ http://www.city.sosa.lg.jp(平成 26 年 12 月 2 日にアクセス)